

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年12月5日

【評価実施概要】

事業所番号	1072100447
法人名	社会福祉法人 恵林
事業所名	グループホーム りすの国
所在地	群馬県高崎市井出町1280-3 (電話) 027-344-9881

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5
訪問調査日	平成20年11月18日

【情報提供票より】(20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13年4月1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18人
職員数	12人 常勤7人, 非常勤5人, 常勤換算12.0人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3階建ての 階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (10月1日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	6名	要介護2	5名		
要介護3	6名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.8歳	最低	77歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	真木病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームの支援課長と管理者は上司として職員を信頼し現場を任せる気持ちで相談役に徹している。職員全員で何でも話し合いができる雰囲気大切にしている。運営理念の見直しは全職員で意見交換を行い、法人の理念とは別に「いつでも元気で、お互いに信頼しあい、十人十色の生活を」「地域に開かれ、地域に根ざすホーム」と事業所独自の理念を掲げている。生活活動を利用者と職員は共に、自然な形で協働して和やかな生活を送っている。職員は利用者の日々の何気ない会話に関心を寄せ、思いや意向を把握する姿勢を持ち、一人ひとりに寄り添って、理念を常に意識しながら如何したら良いか、職員間で話し合い、できる限り個別性のあるケアの実践を目指し取り組んでいる。その一例である入浴については、利用者の「風呂は夜に入るもんだ」の一言に職員は気づきを覚え、如何したら希望を取り入れることができるのか話し合いを行ない、その結果、夜間入浴を実践することになった。今後も一層の期待が持てるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>①地域密着型サービスとしての理念については、全職員で話し合い地域との関係性を折り込んで理念を掲げている。②地域との付き合いについては、法人の「えいりん祭」に地域の方の招待の他、散歩時に挨拶を交わす、話しをする付き合いに加え、散歩コースのごみ拾いをする事でより地域の方との交流を深めている。③評価の意義の理解と活用については、自己評価には全職員で取り組み作成をしている。④市町村との連携については、運営推進会議に市担当者が参加しているが他には連携がないようにみえる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の意義や目的を全職員に伝え、各ユニット毎に全職員が話し合い作成に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定期的開催をしており、事業所から利用者状況や活動報告等を行い、参加者から意見や要望を聴くように努めている。そこでの意見や要望は運営に反映させるようにしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族等の来訪時には話しやすい雰囲気づくりに留意している。運営推進会議には、家族等に参加してもらい意見や要望を聴くように努めている。相談、苦情の担当者を「苦情窓口」として明示した。介護相談員を受け入れて、本人や家族等が意見や苦情等を出せる機会をつくり、出た意見や苦情等は運営に反映させ、サービスの向上に活かす取り組みをしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>買い物や散歩時に挨拶を交わす、話しをする。法人全体の「えいりん祭」には地域の方を招待し、沢山の方の参加がある。地域の祭り、花火大会等に参加をする。散歩時にはごみ拾いを行い地域の方から感謝の言葉を頂く等で利用者と職員は交流を図っている。地域の方からは、利用者の散歩する姿が見えないと気にかけてくれ職員が問われる場合もある。地域との連携が図られてきている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年の外部評価の結果を基に、全職員で理念の見直しを行った。「いつでも元気で、お互いに信頼しあい、十人十色の生活を」「地域に開かれ、地域に根ざすホーム」と地域密着型サービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員で話し合い掲げられている理念を共有し、常に具体化していくことを意識して日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	買い物・散歩時には挨拶を交わす、話しをする。法人全体の「えいりん祭」には地域の方を招待する、地域の祭り、花火大会等に参加をする。散歩時にはごみ拾いを行い地域の方から感謝の言葉を頂く等で、利用者と職員は交流を図るようにしている。今後は地域の清掃活動への参加を考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義や目的を全職員に伝え、各ユニット毎の職員全員が話し合いを行い作成に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的を開催をしており、事業所から利用者の状況や活動報告等を行い、参加者から意見や要望を聴くようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議には、市の担当者の参加はあり意見交換等を行っているが、それ以外は窓口に訪れることはない。</p>	○	<p>運営推進会議以外に市の担当窓口を訪問し地域密着型サービスとして、事業所の考え方やケアサービスの実情等を積極的に伝える機会を作り、市との連携を図っていくことが望まれる。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族等の来訪時には、健康状態や暮らしぶりを伝えており、月1回ホーム便り「こりすだより」を発行し送っている。健康状態等必要に応じて電話で報告をしている。金銭面については、小遣い程度の金額を預かり、随時報告をしている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族等の来訪時には話しやすい雰囲気づくりに留意している。運営推進会議には、家族等に参加をしてもらい意見や要望等を聴くように努めている。相談、苦情の担当者と窓口を明示をし、介護相談員の受け入れ等を行い本人、家族等が意見、苦情等を表せる機会を作っている。次回から運営推進会議には利用者全員の家族に参加を依頼する方針である。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者、家族への信頼を築くためにも、馴染みの職員が対応することが重要と考えており、職員間で何でも話し合える人間関係づくりを重視し、職員の固定化を図り利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内ではリスクマネジメント、ストレスについて、事例発表等を行いケアの質の向上を図っている。介護相談員からも感想を聞いている。基礎研修、リーダー研修等の外部研修に参加している。研修後は報告会や資料閲覧等を行い共有を図っている。職員の資格取得への支援を積極的に行って資料提供等をしている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域密着型サービス連絡協議会に加入をしているが、以前は交換研修の受け入れをする等で同業者との交流があったが、現在は交流の機会がない。</p>	○	<p>他の法人の同業者との交流や連携が不可欠である。管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち連携を深めることを期待したい。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族に事業所を見学してもらうことから始め、お茶を共にしてもらい、職員が自宅に出向いたりしながら、馴染めるよう配慮している。入所になってからは、家族から情報を基に安心感を持って環境に馴染めるように対応方針を職員は共有して支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側・される側という意識を持たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるようにしている。歯磨きのマナー、ハンバーグやだんご作り、言葉遣い、昔話等教わることが多い。共に過ごし支えあう関係づくりに留意している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、一人ひとりに関心を寄せ本人との会話の中から思いや意向の把握に努めている。家族等の情報を基に家庭でしていたことが継続できるように配慮している。日々の気づきを職員間で常に話し合い共有しながらケアに活かしている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族には日頃のかかわりの中で思いや意見を聴き、介護計画に反映させるようにしている。ユニット毎に毎月モニタリングを行い、カンファレンスで職員が話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映させた利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	随時、状態の変化に応じて見直しを行っている。定期的な見直しについては、毎月のモニタリングを活かし3ヵ月に1度行っている。職員間で話し合い、本人、家族等に説明し確認しながら現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族等の希望や状況に応じて、通院介助、買い物、特別に行きたい(お墓参り等)所等必要な支援は柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、本人・家族等の意向を確認し、希望するかかりつけ医で適切な医療を受けられるように支援している。歯科や皮膚科等は往診が受けられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状態の変化に応じて、家族と関係者等で繰り返し話し合いを行い、終末に対する対応方針を定め同意書を作成し、家族と関係者全員で方針を共有し支援をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の尊厳を大切に、言葉かけや対応に配慮しながらやさしくさりげなく支援をしている。記録等の個人情報の取り扱いに関しては、秘密保持の徹底を図るように留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調やその時の気持ちを大切にしながら、起床時間、食事、散歩、買い物等できるだけ個別性のある支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を1日の活動の一つとして、食材の買出し、調理の下ごしらえ、盛り付け、テーブル拭き、片付け等も利用者と共に、職員は利用者と同じテーブルを囲み和やかな雰囲気ですべてしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ユニット毎に曜日を定めているが、希望やタイミングに合わせて柔軟に入浴を楽しめるよう対応している。利用者の希望に応じて職員間で話し合い、夜間入浴を希望される方に応じる取り組みを行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	園芸、ぬり絵、折り紙、買い物、散歩、ドライブ、季節の花見、外食、晩酌、流しそうめん、バーベキュー、歌クラブ、掃除、調理の下ごしらえ、盛り付け、片付け等で役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物、ドライブ、季節の花見、ウッドデッキで過ごす等、利用者が戸外に出て楽しめるよう支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関には施錠せずに、自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、同敷地内の老人保健施設と協力体制で、年2回利用者と一緒に避難訓練を実施している。緊急システムの点検も年1回実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック・記録し、職員が情報を共有している。献立は利用者の希望も取り入れて作成しており、職員に栄養士がいるのでアドバイスを受け栄養バランスに留意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先にベンチ、廊下に椅子が設置されている。ホール内に観葉植物や蘭の花、行事の写真、作品が飾られている。事務室内の出入りも自由である。ホールやウッドデッキからは庭木や高校生の元気な姿が見ることもできる。菜園では野菜づくりをしている。利用者にとって居心地よく、安心感のある場所になっているように見受けられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、籐の椅子、テーブル、衣装箱、テレビや台、家族写真、寝具、花や観葉植物、化粧品、馴染みの調度品、愛読書等持ち込まれており、本人が安心して過ごせる場所となっているように見受けられた。利用者によっては新聞を取っている。		